

# と ネットワーク



- ▶ 人口 7,272人
- ▶ 世帯数 1,998世帯 (昭和62年1月1日)
- ▶ 面積 4.45平方キロ

# 原

# 田

## 豊かな湧き水と緑に囲まれ 心がふれあう福祉のまち

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。5月は吉原、6月は今泉地区です。連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課 ☎51-0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。

原田地区は、愛鷹山西麓に位置し、豊富な湧き水が今でも流れている地区です。

このため、本市の製紙業の集積がみられる地区で、現在十九工場を数えています。

原田の製紙業の始まりは、明治二十八年、日本最初の機械抄和紙工場として原田製紙会社が操業してからです。今の三島製紙は、大正二年、滝川製紙を買収して操業を始めました。

地区は、東名高速道路から南は工場と住宅との混在地域で、人口密集地域となっています。

また、東名から北は、農業地域で、畑・茶畑が広がる地域でしたが、昭和五十一年、富士見台団地の造成後、団地南部に宅地化が進んできています。滝川には鑑石園や永明寺があり、庭園に湧水の流れる風光明媚なところがあります。

特に鑑石園の湧水の中には、「かがみ石」と呼ばれる石があって、絶世の美女照天姫が姿を映しては身だしなみを整えた、と言われる伝説が残されています。



△ 原田清流子供太鼓の皆さん

おじゃま  
します

## 打てば響く人間に

原田清流子供太鼓

滝川のせせらぎが大海に流れる様を表現した「原田清流子供太鼓」。三月二十九日に保存会が発足し、子供たちは、ばちを握る手に一層力が入っています。今回は太鼓の練習場におじゃましました。

「ドンドン…」「そいゃ」と元

気のよい子供の声と太鼓の音が、原田小学校に響きます。

原田清流子供太鼓は毎週土曜日の午後、原田小学校を会場に、地域の小学生約三十人が集まって練習を重ねています。

昭和五十九年に結成され、最初

は青竹や古タイヤ、神社に伝わる古太鼓などで練習をしていました。ことしの三月、その実力を認められ、自治総合センターから助成金を受けて五基の太鼓を購入しました。

三月二十九日には保存会の発会式が行われ、地域を代表する組織となってきました。

「太鼓をたたくと、お母さんにしかられてもすつとする」という現代っ子も一たびばちを持つとその目は真剣。「集中力自己表現力が身に付き、元気のよい子になる」と言う指導者のことばがうなずけます。

「打てば響く人間になるのが、原田清流子供太鼓の心です」と保存会会長の桜井久さんは語ってくれました。原田清流子供太鼓は地域のまちづくりに大きく貢献していると云えるでしょう。